

2020年3月5日

オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ地域圏ミッション来日 山岳レジャー産業におけるノウハウを交流

先月2月18日、フランス中央部～南東部に広がるオーヴェルニュ・ローヌ・アルプ地域圏より観光経済ミッションが来日し、ローラン・ヴォキエ地域圏議長の記者発表会が駐日フランス大使公邸にて行われました。

議長は発言の冒頭、日本と当地域の交流がリヨンの絹織物産業にまつわる交易に始まったとし、今上天皇がご即位前、皇太子時代最後の訪仏の際、リヨンの絹織物博物館を訪問されたことにも触れ、二者の関係の深さを強調しました。

今回のミッションの目的を産業上のクロスパートナーシップの構築と述べ、愛知県の産業ポテンシャルの高さから、当地域との相互協力に構築に意欲を表明し、とくにスタートアップ企業の集積地、国際会議場運営におけるパートナーシップを築きたいと言及しました。

もう一つの目的は、山岳レジャー産業における日本とのノウハウの交流です。オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ地域は面積の70%を山岳が占め、西欧最高峰のモン・ブラン、ヴァル・トランスやムジェーヴなど高地山岳リゾートを抱えます。当地域圏は山岳レジャー全般への投資を活発に行い、アフタースキーの充実、高地リゾートでの食事の高品質化、オフシーズンのアクティビティ開発などに多角的に取り組んでいます。来日メンバーには、山岳リゾートやアウトドア設備の関連企業が加盟する「クラスター・モンターニュ（山岳レジャー連盟）」を含み、2月18日には日本の同業者との意見交換を行うセミナーを都内で開催致しました。

来日ミッションに参加したオーヴェルニュ・ローヌ・アルプ地方観光局は、約20年前より日本市場でのプロモーションを積極的に展開しており、このたびの滞日中では主要旅行会社各社への営業活動に精力的に取り組みました。地域圏の首都リヨンは、フランス料理の巨匠で2018年に逝去したポール・ボキューズの本拠地であり、フランス料理界のオリンピックと言われる料理選手権「ボキューズ・ドール」が隔年で開かれる地。昨年末に国際美食館がリヨンに誕生したことから、食の都としての自負がますます高まります。今年5月には、ディジョン～リヨン～マルセイユを広範囲に繋ぎ美食をPRする観光プロジェクト「ヴァレ・ド・ラ・ガストロノミー」（美食の渓谷）を立ち上げることを示唆し、食への感度が高い日本市場の関心を集めたいと期待を寄せました。



(左から) ローラン・ヴォキエ オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ地域圏議長、リオネル・フラッスール 同地方観光局局長、ブノワ・ロベール 同山岳レジャー連盟事務局長

プレス向け資料をご活用ください。

1. 記者発表会時撮影報道用画像、オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ地方の観光地画像
2. オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ地方観光局 プレス資料
 - 1) [総合資料 2020](#) / 2) [新着情報と取材アイデア](#) / 3) [スノーリゾート](#)